

リハビリテーション・ケア合同研究大会2021
地域包括ケアシステム構築を目指した市区町村レベルでの地域リハビリテーション支援体制
一市区町村が求めるもの、専門職が支援すべきもの一

山梨県小菅村で展開する地域リハビリテーション

住民の暮らしを大切にした地域づくり



保坂 和輝 作業療法士

甲州リハビリテーション病院 8年間勤務

回復期病棟、障害者病棟、亜急性期病棟に勤務

⇒CVA・骨折・頸損・脊損・肺炎・神經難病等

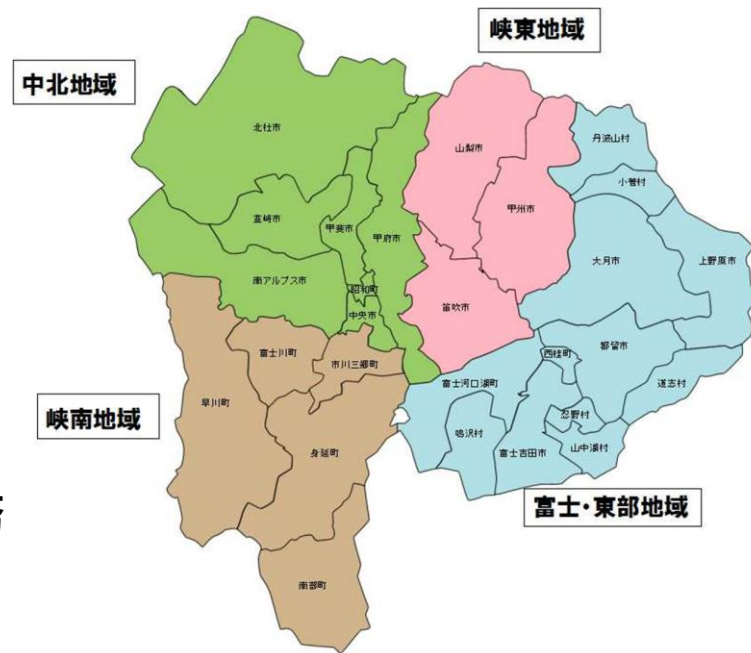
介護老人保健施設 甲州ケア・ホーム 9年勤務

地域リハ関連 12年

⇒小菅村地域リハビリテーション支援

⇒その他市町村の地域リハビリテーション支援

⇒認知症関連事業、地域ケア会議等



話のPoint

●小菅村にセラピストが関わることになった経緯

- －機能訓練事業から開始
- －訪問相談、介護予防教室、研修会など

●地域づくりまで関わるようになったきっかけ

- －生活から暮らしへ展開
- －地域をリハビリテーション

●小菅村での地域リハにおいて大切にしていること

- －住民主体であること
- －場の展開が共生型へ



始まりは機能訓練事業

- 平成6年** 機能訓練事業（県P T・O T派遣事業）として継続。
- 平成12年** 通所介護（介護保険事業）の中に組み入れた。
- 平成22年** デイサービス利用者の評価、プランニング、個別の相談、介護講座
（前任者から保坂へ移行）
- 平成24年** 個別相談事業のみに留まらず、予防事業展開への支援実施。
地域住民に向けての予防教育実施。
- 平成26年** 家族懇談会開始。
- 平成28年** 地域ケア会議や協議会の開催。
- 平成30年** 行政・社協・NPO・株式会社等での「つながる会議」に参画
- 令和3年** 村づくりや地域づくり、つどいの場の提案



当初の支援内容

●訪問相談

- 個別での身体機能、生活、環境の評価
- 自主訓練メニューの提案
- 家族への介護方法の提案

●介護予防教室（サロン）への参加

- 生活相談
- 集団体操・体力測定

●地域ケア会議参加

- 対象者のニーズの掘り出し作業

●専門職種への教育

- 各種勉強会の開催
- デイサービスのマネジメント



支援の変化（生活から暮らしへ）

- 在宅復帰することが目標
- ADL重視型の支援
 - －構成する身体機能、能力向上
- 何をして暮らしていきたいのか
 - －日常生活動作ではない活動、参加の視点
- 今までの「あたりまえ」が「支援者本位」
- そこには「譲れない暮らし」があること



暮らしの実現が重要

- すでに生活は再開されている
- 畑、趣味、こだわり、日課がそこにはある
- 少しの工夫で暮らしの幅が広がる

想像もつかない暮らしがある

何にこだわっているかが重要



地域で暮らしていくこと

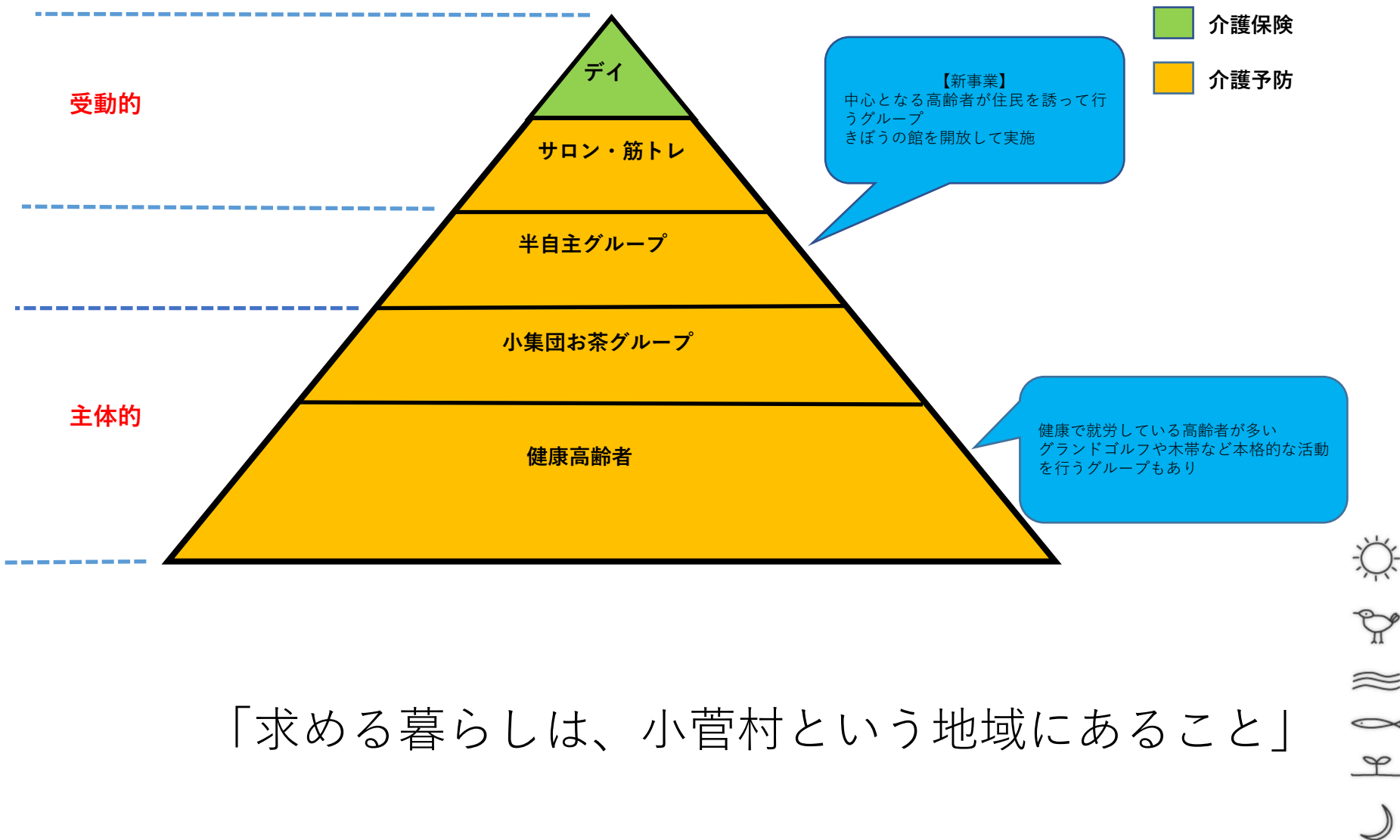
- 自立支援が重要となる
- 地域リハビリテーションが重要となる
- その人が地域にいるのではなく、地域にその人がいる
- その人がいる**地域をリハビリ**していくこと

1人では生きていけないこと

地域でその人を支える体制が整えること



視点は地域へ変化（全体像）



制度・制度外すべてが連動

1 包括・1名担当（保健師）・セラピストの強みを活かして

小菅村 役場
(村長)



NPO法人
多摩源流こすげ

社会福祉法人
小菅村社会福祉
協議会

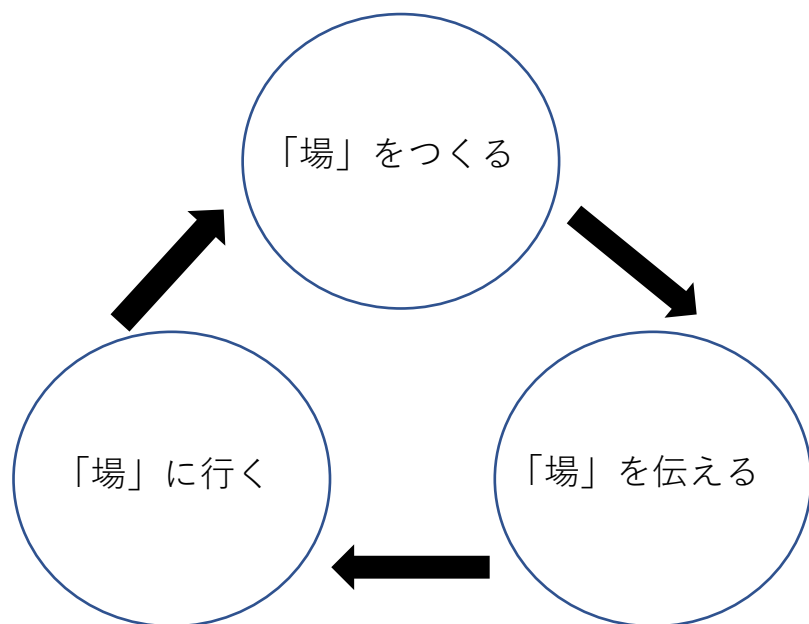


株式会社 源
ディレクション部



住民を主役にした場づくり（強化した共生型へ）

- 個人が選択できるだけの「場」を多くつくる
- それぞれの「場」の生み出した雰囲気や可能性を伝える



主役はあくまでも住民
行政や社協、NPO職員も住民の一人



「地域への支援がその人の支援に」

- 地域ケア会議、介護予防、訪問相談などから始まる地域支援
- 結果が繋がって、セラピストは地域づくりに関わるところまで
- 対象を地域にシフトしていく
- 地域の目標、課題を明確にして地域をリハビリしていく（連動性）
- 地域住民を主役にした場づくりへ展開（強化した共生型へ）